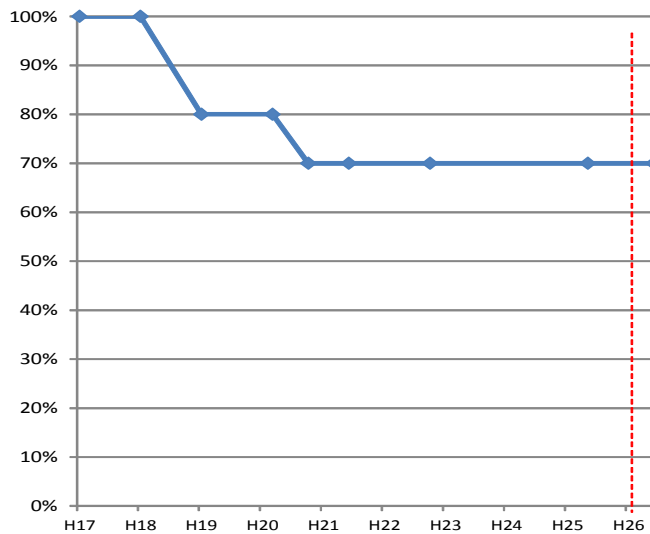


樹種名	イイギリ（別名：ナンテンギリ）	
科 目	イイギリ科	
学 名	<i>Idesia polycarpa</i>	
分 布	日本（本州以南）、国外では朝鮮半島、中国、台湾に分布する。	
樹木特性	陽樹であり二次林に生息し、土壌肥沃な斜面に多く、初期成長は早く先駆種である。このため、周りの樹木が成長し暗い環境となると発芽・生息がすることが困難となり、森林の発達と共に数が減少する。 生育環境が良好な場合では、寿命は最大樹齢が 100 年以上と推定され、埋土種子は休眠し、その寿命も長いと推定される。	
用 途	街路樹、公園樹、器具・下駄材として利用。	
植栽本数 (植栽密度)	10 本 (他樹種との混植)	
特 徴	【樹 形】 落葉高木で雌雄異株を有し、高さは 15~20m。葉は互生、キリやアカメガシワに似て幅広い。葉柄は長く、先の方に 1 対の蜜腺がある（アカメガシワにも似ているが、蜜腺は葉身に付けている）。雄花も雌花も同じように黄緑色で 3~5 月頃咲き、円錐花序となり垂れ下がる。花弁はなく、萼片の数は 5 枚前後で一定しない。雄花には多数の雄蕊がある。雌花にも退化した雄蕊があり、子房上位。果実はブドウの房のように垂れ下がる。液果で直径 1cm ほど。熟すと真っ赤になり、多数の細かい種子を含む。果実は落葉後も長く残り、遠目にも良く目立つ。白実の品種もある。	
試験地での様子	ポット苗を植栽し、植栽直後から 3 年間はコウモリガやカミキリムシ類による穿孔被害が発生した。成長量は大きく、植栽から 9 年で平均樹高は 9m 程度にまで生育している。	 
被 害	コウモリガやカミキリムシ類による穿孔被害が見られた。	

イイギリ 現存率



【現存率】

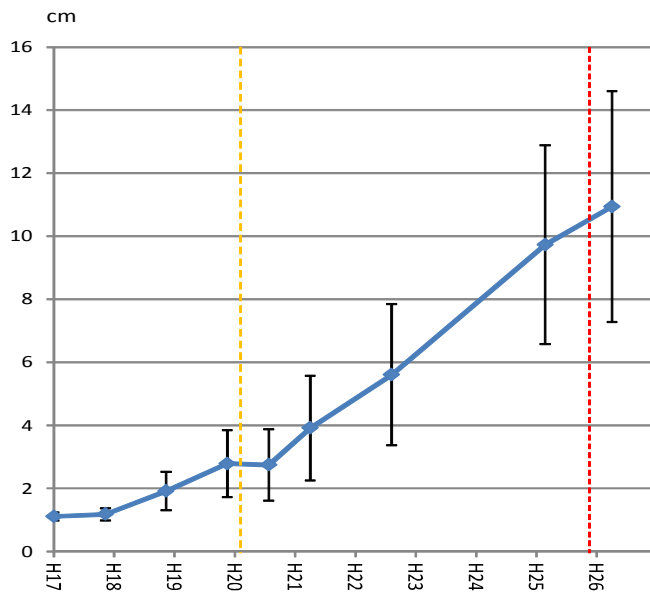
植栽後にコウモリガやカミキリムシ類の穿孔被害により枯死が発生した。

平成 21 年度以降の枯死は見られない。

平成 26 年度に毎木調査を実施した結果、現存率は 70.0%であった。

※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。

イイギリ 根元・胸高直径



【根元・胸高直径】

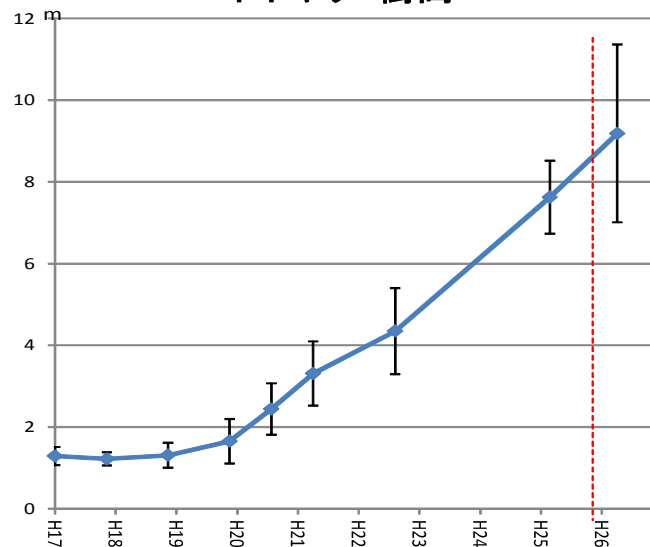
植栽後、4 年が経過した頃より、成長量が大幅に増加している。

平成 26 年度に毎木調査を実施した結果、平均胸高直径は 10.94 cmであった。

※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。

※ オレンジ線は、根元から胸高へと測定箇所変更のため、データの連続性はない。

イイギリ 樹高



【樹 高】

順調に成長している。

平成 26 年度に毎木調査を実施した結果、平均樹高は 9.18mであった。

※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。

《プチ情報》

和名の由来は、昔、葉で飯を包んだため飯桐といわれる。果実がナンテンに似るためナンテンギリ（南天桐）ともいう。イイギリ属の唯一の種。

秋から冬に熟す多数の赤い果実が美しいので、栽培もされ、生け花や装飾にも使われる。

